

こだま Q&A

Q87

尿検体で細胞診・細菌・沈渣を同時に依頼したいのですがどのくらいの量が必要ですか。また、依頼時の注意点などがあれば、教えてください。

A87

検体量、容器、注意点を検査別に下表にお示しします。
また、細胞診専用容器を新たに設けましたので、ご使用ください。

	細胞診検査	微生物検査	尿（一般・沈渣）検査
検体量	30mL	10mL	10mL
提出容器	③⑧ 細胞診チューブ	②① 滅菌試験管	②⑩ 尿ポリスピッツ
同時依頼の場合	単独の容器で提出	滅菌試験管 1本の検体で可能	
容器の変更点	細胞診専用容器新設	20mL から10mL に変更	変更なし
備考	細胞診では、採取された尿を遠心分離し、沈渣を標本にします。 標本中の細胞が多く観察できるように、尿量が多く必要です。微生物検査や尿沈渣とは容器を分けて提出してください。	微生物検査はコンタミネーションの影響が大きい ため、必ず滅菌試験管でご提出ください。 回収までの保存は冷蔵で お願いします。ただし、淋菌培養をご依頼の際は室温 保存をお願いします。	部分尿（新鮮尿）でご提出 ください。回収までの保 存は冷蔵をお願いします。 沈渣においては尿量が 5mL 以下では参考値とな ります。

* 4月中旬お届け分より順次、新容器に変更となります。旧容器の使用も可能です。
(検査センターインフォメーション NO.2018-18参照)

お問い合わせ：☎代表 0120-14-7191(フリーダイヤル)

きやうちボール

当検査センター広報誌「臨床検査センターだより」は、10年以上同じデザインで発行してまいりましたが、今月号からリニューアル致しました。広報誌は、広島市医師会会員の皆様、ご利用施設の皆様にとって有益な情報を発信できるよう、毎号検討を重ねております。現場で診療と業務にお役立ていただければ幸甚に存じます。

広報誌に限らず、当検査センターは日々業務改善を行いながら変化しております。現状に満足することなく、ご要望に沿ったより良いサービスを提供できるよう努めてまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

谷敷 圭美（センター長）

<広報委員> 谷敷 圭美 / 枡本 健 / 藤井 ひとみ / 三宅 康雄 / 加藤 与旨多 / 藤本 彩咲日